

二七六 明治四年八月三日 在海牙都筑大使ヨリ
「ドラゴー」主義修正案報告ノ件 林外務大臣宛(電報)

八月三十一日 前一一、一五 海牙発
九月一日 前一一、〇〇 東京着

林外務大臣

都筑大使

(訳文)

第一一五号
自国民ニ支払ハルヘキモノトシテ他國ノ政府ニ對シ要求セラレタル契約上ノ債務ヨリ生スル純然タル金錢上ノ原因ニ基ク武力的衝突ヲ國家間ニ惹起スコトヲ避ケムカ為記名國ハ斯ル契約上ノ債務ノ償還ノ為メニ兵力ニ訴ヘサルコトヲ約ス然レトモ本規定ハ債務國カ仲裁裁判ニ附スルノ申出ヲ拒絶スルカ若ハ之ニ対スル回答ヲ為ササルトキ又ハ之ヲ承諾シタルトキト雖モ仲裁契約ノ成立ヲ不能ナラシメタルトキ又ハ仲裁裁判アリタル後ト雖モ該仲裁裁判ノ判決ニ從ハサルトキハ之力適用ナキモノトス右ノ外記名國ハ上記仲裁裁判ハ海牙ニ於テ採用セラレタル國際紛争平和的處理條約第三章ノ手続ニ從フヘキコト及該仲裁裁判ハ当事國ノ一致セサル限債務ノ當否及其ノ額並之カ弁済ノ時期及其ノ方法ヲ決定スヘキモノタルコトヲ約ス

二七七 明治四年九月三日 在海牙都筑大使ヨリ
「ドラゴー」主義修正案ニ對スル帝国政府ノ意向
回訓ノ件

九月三日 午後五時二十五分發
都筑大使

林 外 相

第三五号
貴電第一一四号ニ閔シ諸大國皆贊成スルニ於テハ貴官モ同意セラレ差支ナシ
註 本件ハ十月十六日總会ニテ可決サル

第八節 陸 軍 関 係

二七八 明治四年七月六日 在海牙都筑大使ヨリ

林外務大臣宛(電報)

陸戰ノ法規改正ニ關スル喫、丁、米三国ノ提案
要領報告ノ件

七月十九日 前一一、二五 海牙発
本省着

都筑大使

第六八号

議案要領

陸戰法規改正ニ關シ喫太利ヨリ五十三条二項鐵道材料以下

及ヒ戰鬪員ヲ即時戰鬪外ニ置クニ必要ナル限界ヲ超過スル一切ノ彈丸ヲ使用スルコトヲ禁ストノ議案ヲ提出セリ

註 右丁抹提出ノ海底電線ニ關スル追加案ハ八月一日ノ第二委員会ニ於テ可決サル後掲海軍關係三

一〇文書參看

林外務大臣宛

都筑大使

二七九 明治四年七月二十四日 在海牙都筑大使ヨリ

林外務大臣宛(電報)

第二委員会ニ於テ陸戰法規改正案通過ノ件

七月二十四日 後九、〇〇 海牙発
本省着

林外務大臣宛

都筑大使

第七七号

本日第二委員会ノ第二分科会ニ於テ陸戰ニ關スル條約第十
七條左ノ通り改正セラレタリ

ヨリ爆弾丸ノ如キ無益ニ慘酷ナル所為ヲ被ラシムル弾丸
ザレバ沒收破壊スルコトヲ得ス若シ之ヲナシタルトキハ
和平回復ノ際返還補償ヲナスヘキノ議案ヲ提出セリ又米國
ハ敵地ヨリ中立國ニ通スル海底電線ハ最大必要アルニアラ
ザレバ没收破壊スルコトヲ得ス若シ之ヲナシタルトキハ
和平回復ノ際返還補償ヲナスヘキノ議案ヲ提出セリ又米國
ヨリ爆弾丸ノ如キ無益ニ慘酷ナル所為ヲ被ラシムル弾丸

第六章 會議ノ進行、陸軍關係 二八〇 二八一

三四〇

ルノ権利ヲ有ス但右ハ其本国政府ヨリ償還スヘキモノト
ス」

本官ハ思フニ右改正ノ結果一方ニ於テハ敵国ニ捕ハレタル
我將校ヲシテ二重ノ給与ヲ受ケシムルコトナルカ故ニ我
給与規則ヲ改正スルノ必要ヲ生シ且他方ニ於テハ我國ニ捕
ハレタル敵國將校ハ我相當將校ト同額ノ給与ヲ以テシテハ
到底同條約第七條ノ趣旨ニ從ヒ相當ノ生活ヲ為サシムルコ
トヲ得サルニヨリ本官ハ曩ニ帝国政府ノ内訓ニ基キ該改正
案ニ反対セリ

然ルニ本分科会ニ於テハ人道主義鼓吹セラレ且其ノ委員ハ
多ク將軍ナルカ故ニ彼等ハ其ノ同僚タル俘虜將校カ少クト
モ衛生班ノ將校ト同等ノ待遇ヲ享受スルコトヲ希望シ為メ
ニ本案ハ大多数ニテ採用セラレタリ

本官ハ該改正案ハ多分本委員会及總會議ニ於テ通過スルナ
ラント思考ス

本件ニ關シ別ニ何等訓令接セサルニ於テハ本官ハ最早反
対ヲ唱ヘサルヘシ

二八〇 明治甲午年八月三日 在海牙都筑大使（電報）

八月二日 後二、五〇發

都筑大使

林 外 相

第二六号

貴電第七十七号ニ閲シ陸戰條約第一七條ノ改正ニ就キ他ノ
列國皆贊成スルニ於テハ貴官ニ於テモ同意セラレ差支ナシ

二八一 明治甲午年八月八日 在海牙都筑大使（電報）

八月九日 後四、四〇

海牙發

都筑大使

林外務大臣宛 在海牙都筑大使（電報）

八月八日 後四、四〇

本省着

都筑大使

二八二 明治四十一年八月十三日 在海牙都筑大使（電報）

八月十六日 後四、一〇

海牙發

都筑大使

二八三 明治甲午年八月十六日 在海牙都筑大使（電報）

八月十七日 後四、一〇

東京着

都筑大使

第九九号

英國ハ投射物及彈丸ニ閲スル一八九九年ノ二宣言ニ葡萄牙
ハ彈丸ニ閲スル宣言ニ加入スルコトヲ會議ニ於テ建議セリ
獨逸ヨリ（該規則ノ條項ニ違犯シタル交戰國ハ之ガ為メ中
立人ノ蒙リタル損害ヲ賠償スベク交戰國ハ其軍所屬者ノ一

議案要領 陸戰法規慣例規則ノ違犯ニ基ク損害賠償ニ閲シ
独逸ヨリ（該規則ノ條項ニ違犯シタル交戰國ハ之ガ為メ中
立人ノ蒙リタル損害ヲ賠償スベク交戰國ハ其軍所屬者ノ一
ニ違反シタル交戰國ハチヨウスレバ損害賠償ヲ為スベク交
戰國ハ其軍所屬者ノ一切ノ行為ニ付責任ヲ有スル事ト為セ
リ不日第二委員会第一分科会ニ於テ該修正案ニ付討議ア
ル筈ナリ

二八四 明治甲午年八月十六日 在海牙都筑大使（電報）

八月十六日 後四、一〇

海牙發

都筑大使

二八五 明治甲午年八月十六日 在海牙都筑大使（電報）

八月十七日 後四、一〇

東京着

都筑大使

第九九号

第二委員会ハ陸戰法規慣例規則中ノ改正案ニ付スル調査委
員ノ報告ニツキ討議シ大体電報一〇〇ノ條項ヲ採用シ明日
ノ總會議ニ於テ確定スル筈但シ右第一〇〇号第六項敵国人
民ヲ軍事動作ニ付スル件ニ付キテハ露國ハ一八九九年ニ
於ケル主義ヲ維持シテ改正案ニ反対シ第一四項ハ英國委員
一時可否ヲ明言スルヲ（避ケ？）タリ而シテ第八項ノ改正
ハ防守セサル市府等ヲ輕氣球ヨリボンバードスルヲ禁ス
ルノ趣旨ニ出タルモノナリ第六項ニ付スル前記露國意見ハ
他ノ大国中贊成スルモノアリ帝国モ之ニ同意スル積リ又輕

第九三号

第六章 會議ノ進行、陸軍關係 二八二 二八三

三四一

氣球ヨリ投射物ノ投下禁止ニ關シ白耳義ヨリ一八九九年ノ宣言ト同一ノ提案ヲナシタルモ仮露反対シ獨乙ハ全会一致

ヲ條件トシテ賛成シ總會議ニ於テモ全会一致ヲ得ルノ望ナク從ツテ如何ナル方法ニテ結着スルヤ不明ナレトモ兔ニ角帝國ハ之ニ加入スルノ必要ナキ故同意セサル積ナリ

電報六八末段米國案ハ彈丸ニ開スル一八九九年ノ宣言無期限ニシテ重複ノ嫌アル為消滅セリ猶ホ全会一致ヲ得サル議案ハ反対者ノ少數ナルニ拘ラス該反対國ノノ力ナル為消滅スル事アリ又反対者ニ限り留保フナシ悉皆記名スルコトトナモノアリ又如何ナル場合ニ於テ右何レノ方法ヲ取ルヤハ一定ノ標準ナシ御含迄

二八四 明治甲年八月十六日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

第二委員会ヲ通過セル陸戰ノ法規慣例規則ニ對

スル修正要領報告ノ件

八月十六日 後〇、二五 海牙發

八月十七日 後七、一〇 本省着

シ但シ右ハ本国政府ヨリ償還スヘキモノトス)ニ改正スルコト

六、第一二二條ノ次ニ(敵國人民ヲ脅迫シテ其ノ本国ニ敵對スヘキ軍事動作ニ加ハラシムルコトヲ禁ズ開戦前ヨリ其國ノ勤務ニ從事セルモノニ対シテモ亦同ジ)ノ一條ヲ追加シ第四十四條ハ削除スルコト

七、第一二三條中ニ(敵國人民ノ訴ヲ無効トシ中止シ又ハ受理セザルノ宣言ヲナスコト)ノ一號ヲ加フルコト

八、第二十五條中ニ(如何ナル方法ヲ以テスルモ)ヲ加フルコト

九、第二十七條ノ砲撃上注意ヲ加フベキ物件中ニ歴史的紀念物ヲ加フルコト

十、第四十四條トシテ占領地住民ヲ脅迫シテ敵國軍隊又ハ其防禦方法ニ闕スル情報ヲ求ムルコトヲ禁ストノ一條ヲ新タニ加フルコト

十一、第五十二条第三項中其交付シタル領收証ニ対シテハ戰争終了前ト雖モ成ルヘク早ク交戦國軍衛ニ於テ仕払ノ処置ヲナスベキコトヲ加フルコト

十二、第五十三條第二項中(鐵道材料陸上、電信、電話、海上法ノ規定外ニ在ル汽船其他ノ船舶)ヲ(陸上、海上

林外務大臣宛

都筑大使

第一〇〇号

陸戰法規慣例規則中ノ改正案ニシテ多數ヲ以テ第二委員會ヲ通過セルモノ左ノ如シ

一、第二條中ニ公然武器ヲ携帶スルノ條件ヲ加フルコト

二、第五條中ニ俘虜ハ保安手段ヲ必要トスル事情ノ繼續スル期間ノ外幽閉スルヲ得サルノ制限ヲ加フルコト

三、第六條第一項中將校ハ労役者トシテ使役セザルコトヲ加ヘ第三項中若シ内國陸軍々人ニ関スル賃銀ノ規定ナキトキハ其労務ニ応シ相當ノ賃銀ヲ支給スルコトヲ加フルコト

四、第十四條中銘々票ハ番号、俘虜ノ氏名、年齢、国籍、階級、所屬部隊並ニ捕獲、収容、負傷、死亡ノ時日及場所其他必要ノ事項ヲ記入シ平和條約締結ノ後之ヲ相手國政府ニ送付スルコト及ビ情報局ヲシテ俘虜ノ宣誓解放コケントウボウ?逃走ノ現況ヲ知悉セシメ且ツ此等俘虜ノ残シタル自用品等ヲ關係者ニ伝達スルコトヲ加フルコト

五、第十七條ヲ(俘虜將校ニ対シテハ捕獲國政府ニ於テ自國軍隊ニ於ケル同等階級ノ將校ト同一ノ給料ヲ支給スベコト)

及ヒ空中ニ於テ人類、物件及ヒ音信ノ搬送ニ使用サルベキ一切ノ交通及連搬機關ニ改ムルコト

十三、第五十三條ノ末尾ニ(占領地又ハ敵地ヨリ中立國ニ統ク海底電線ハ最大ノ必要アルニアラザレバ押収又ハ破壊スルコトヲ得ス若シ之ヲナシタルトキハ平和回復ニ際シ之ヲ返還シ及ビ其ノ補償ヲナスヘキモノトス)ノ一項ヲ加フルコト

十四、現行規則中ニ(現行規則ノ條項ニ違反シタル交戦國ハ必要ニ応シ損害賠償ヲナスベク該交戦國ハ自國軍隊所屬者ノ行為ニ就キ責ニ任ズ)ノ一條ヲ追加スルコト

二八五 明治甲年八月大日 在海牙都筑大使(電報)
林外務大臣宛
総會議ニ於テ陸戰法規修正案可決ノ件

八月十八日 後四、〇〇 海牙發

林外務大臣宛

都筑大使

物等投射ノ件海軍力ヲ以テスル砲撃ノ件ヲ議セリ（以下英國提案ノ軍備制限ニ關スル宣言案ノ項ニ七一文書ニ採録）

二八六 明治四十一年八月三十日 在海牙都筑大使（ヨリ） 林外務大臣宛（電報）

總會議ニ於ケル陸戰ノ法規慣例規則修正案輕氣球ヨリ爆發物投射ニ關スル提案海軍力ヲ以テスル都市港湾ノ砲撃ニ關スル提案及軍備制限ニ關スル宣言案討議狀況報告ノ件

八月二十一日 前一〇、五五 海牙發

林外務大臣宛

都筑大使

第一〇五号

八月十七日總會議ニ於テ陸戰法規慣例規則中ノ改正案ハ全會一致ヲ以テ通過セリ但シ往電百号第十項ニ對シ獨塊反對シ日露モンテネグロ、ルーマニヤ、ブルガリヤ留保ヲ為シ第十四項ニ對シ英土留保ヲ為セリ又輕氣球ニ關スル一八九年ノ宣言ヲ第三平和會議開会迄更新スル修正案ヲ英國ヨリ提出シタルニ獨塊伊露モンテネグロ、ルーマニヤ、アルゼンチン、ペルシヤ反対シ仏、日、西班牙、瑞典、智利、

二八七 明治四十一年八月二十八日 在海牙都筑大使（ヨリ） 林外務大臣宛（電報）

陸上ニ於ケル中立者ノ権利義務ニ關スル議案ノ討議狀況報告ノ件

都筑大使

第一一一号

陸上ニ於ケル中立者ノ権利義務ニ關スル調査委員ハ電報第二〇号仮案及独逸案ヲ基礎トシ各國修正案ヲ參酌シ別電一一二号及一一三号ノ通り議決シ第二委員会ニ報告スル筈右ハ多分多數ニテ總會議ヲ通過スヘシ然ルニ前電一一三号第六十四條以下ニ付英仏及本官ハ中立人ト地方人民トヲ區別スル理由ナシトノ意見ヲ有シ且東洋諸国ニ在リテハ帰化ニ付未タ何等法則ナキモノアル為メ弊害ヲ生スル虞アルユエ本官ハ此等條項ニ對シ事情ノ許ス限り同意セザル積

八月廿九日 後九、一〇 海牙發

林外務大臣宛

都筑大使

第一一二号

中立國ノ権利義務ニ關スル規則

第一條 中立國ノ版圖ハ不可侵トス

第二條 交戦者ハ軍隊又ハ *mission* *approvisiements* ノ轄重フシテ中立國ノ版圖ヲ通過セシムル事ヲ得ズ

第三條 左ニ掲タル事項ハ交戦者ニ對シ之ヲ禁止ス

一、陸上又ハ海上ニ於ケル交戦國ノ軍隊ト通信スル目的ヲ有スル無線電信所其他一切ノ通信機関ヲ中立國版圖内ニ設置スルコト

二、交戦國ガ戰爭前ヨリ中立國ノ版圖内ニ設置シタル前号ノ通信機関ヲ使用スルコト

第四條 中立國ノ版圖内ニ於テ交戦國一般ノ為メ戰鬪部隊ヲ編成シ又ハ徵募事務所ヲ開設スルコトヲ得ズ

二八八 明治四十一年八月二十六日 在海牙都筑大使（ヨリ） 林外務大臣宛（電報）

中立國ノ権利義務ニ關スル規則案要領報告ノ件

第六章 會議ノ進行、陸軍關係 二八七 二八八

白露、墨西哥、ベネジエラ、留保ヲ為シ往電九九号輕氣球ニ關スル白耳義案ハ仏、露、独、西班牙、モンテネグロ、

ルーマニヤ、ペルシヤ、アルゼンチン、反対シ日本、瑞典、智利、コロンビヤ、墨西哥、ベネジエラ、秘露、留保ヲ為セリ防守ナキ土地砲撃案ハ全會一致ヲ以テ通過セリ但シ独、英、仏、清、日本、西班牙ハ第一條第二項ヲハイチハ第二条第三項ヲ智利ハ第三條ヲ留保セリ英國委員ハ軍備制限問題ニ關シ演説シ其内英國政府ハ同一ノ希望ヲ有スル諸国トノ間ニ毎年軍艦ノ新造計画及其經費ノ報告ヲ交換シテ本問題協商ノ便宜ヲ計ラント欲スルコトヲ宣言シテ既報ノ決議案ヲ承認セリ同日ノ會議ニ於テ英ハ今回ノ病院船條約第十二條ノ留保ヲ解キタルコトヲ議長ヨリ報告セリ往電百号第十一項ハヘ其領收書ニ對スル仕払ハ可成速ニ之ヲ為スベシ）ト修正シ又往電八九号第一号ハ第二項ヲ第三項ニ第三項ヲ第二項ニ麥更ノ上同日ノ會議ニ附セラレタリ

註 1 前掲二八四文書

第六章 會議ノ進行、陸軍關係 二八九

三四六

第六條 中立國ハ個人ガ交戦國一方ノ役務ニ從事スル為メ
各別ニ國境ヲ通過スルコトニ対シ其ノ責ニ任せズ

第七條 中立國ハ交戦國ノ一方又ハ他方ノ為ニスル兵器弾
薬其他陸海軍々用品ノ輸出又ハ通過ヲ制止スルヲ要セズ

第八條 中立國ハ交戦國ニ対シ国有タルト会社又ハ個人ノ
所有タルトニ論ナク海底電信電話並ニ無線電信機ノ使用
ヲ禁止シ又ハ制限スルヲ要セズ

第九條 前二條ノ事項ニ關シ中立國ノ定メタル一切ノ禁止
制限ハ両交戦國ニ対シ平等ニ適用スベク又中立國ハ海底
電信電話又ハ無線電信機ノ所有者タル会社又ハ個人ヲシ
テ同一ノ義務ヲ履行セシムルコトヲ注意スベシ

第十條 中立國逃走俘虜ヲ收容シタルトキハ之ヲ解放スベ
ク若シ其版圖内ニ該俘虜ノ滯在ヲ許容スルトキハ其居処
ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ規定ハ中立國ノ版圖内ニ入りタル交戦國軍隊ノ引
率シタル俘虜ニ之ヲ適用ス

第十一條 中立國ガ其中立ノ侵害ヲ防止スル為メ兵力ヲ用
ユル場合ト雖モ之ヲ以テ敵對行為ト見做スコトヲ得ズ

ク若シ其版圖内ニ該俘虜ノ滯在ヲ許容スルトキハ其居処
ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ規定ハ中立國ノ版圖内ニ入りタル交戦國軍隊ノ引
率シタル俘虜ニ之ヲ適用ス

第十一條 中立國ガ其中立ノ侵害ヲ防止スル為メ兵力ヲ用
ユル場合ト雖モ之ヲ以テ敵對行為ト見做スコトヲ得ズ

ク若シ其版圖内ニ該俘虜ノ滯在ヲ許容スルトキハ其居処
ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ規定ハ中立國ノ版圖内ニ入りタル交戦國軍隊ノ引
率シタル俘虜ニ之ヲ適用ス

第六十四條 交戦國ハ戦争ニ直接關係ヲ有スル勤務ニ中立
人ヲ徵用スルコトヲ得ス
已ムヲ得サル事情アルトキハ衛生又ハ衛生警察勤務ニ中
立人ヲ使用スルコトヲ得此場合ニ於テハ成ルヘク即金ヲ
以テ支払フ為スヘク然ラサレハ領収證ヲ与ヘテ之ヲ證明
シ其支払ハ成ルヘク速ニ之ヲ為スヘシ

第六十五條 前條第一項ハ志願ニ依リ交戦國軍隊ニ屬スル
中立人ニ適用ス

第六十六條 独逸案第六十七條ニ同シ

第六十七條 大要独逸案第六十八條ニ同シ

但シ毀損ヲ押収ニ改ム
第六十八條 大要独逸案第六十九條ニ同シ

第六十九條 大要独逸案第七十條ニ同シ

但シ第二項ヲ「鉄道材料及船舶ニ關シテハ第七十條及第
七十一條ノ規定ニ依リ」ニ改ム

第七十條 鉄道材料ニシテ中立國若ハ其特許人ニ屬シ又ハ
屬スト見做スヘキモノハ交戦國ニ於テ已ムヲ得サル場合
ノ外徵發使用スルコトヲ得ス徵發シタル材料ハ成ルヘク
速ニ其所屬國ニ還送スヘシ中立國ハ必要ニ応シ其版圖内

ニ在ル交戦國ノ鉄道材料ヲ交戦國ノ為メ徵發ヲ受ケタル
ノ外徵發使用スルコトヲ得ス徵發シタル材料ハ成ルヘク
速ニ其所屬國ニ還送スヘシ中立國ハ必要ニ応シ其版圖内

二八九 明治甲年八月三日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

陸戰ノ法規慣例規則増補案報告ノ件

八月廿八日 後九、二〇 海牙發

林外務大臣宛

都筑大使

第一二三号

陸戰法規慣例規則ノ増補

第六十一條 独逸案ニ同シ

第六十二條 中立人ニシテ左ノ各号ノ一ニ該當スルトキハ
其中立及第六十四條乃至第七十二條ニ規定セル特別ノ利
益ヲ主張スルコトヲ得ズ

(イ)及(ロ)独逸案ニ同シ

交戦國ハ前項ノ中立人ニ対シ敵国人民ヨリ嚴酷ナル取扱
ヲ為スヲ得ス

第六十三條 独逸案ニ同シ

但シ(イ)号ヲ「交戦國一方ニ為シタル諸供給又ハ承諾シタ
ル公債ニシテ供給者又ハ債主カ敵地又ハ敵ノ占領地ニ居
住セス且供給品カ該地方ヨリ來ラサルトキ」ニ改ムルコ
ト

範囲内ニ於テ留置使用スルコトヲ得右鉄道材料ニ対シテ
ハ其数量ト使用期間ニ応シ之カ補償ヲ為スヘキモノト
ス

第七十一條 大要独逸案ニ同シ

但シ第一項中平素海上ヲ航行スル船舶ハ買上又ハ使用ス
ルコトヲ得サル趣意ヲ加フルコト

第七十二條 中立人ニ屬スル動産ニシテ軍事上ノ目的ニ使
用シタルカ為メ破壊又ハ損傷シタルトキハ交戦國ハ其使
用ニ対スル賠償ノ外特別ノ賠償ヲ支払フヘシ

第六十九條 大要独逸案第七十條ニ同シ

在海牙都筑大使(ヨリ)
林外務大臣宛(電報)

仏國委員提出ノ陸戰法規増補規定修正案ニ対シ

同意ノ旨報告ノ件

九月一日 後八、一五 海牙發

林外務大臣

都筑大使

号ノ通り修正スル案ヲ仏國ヨリ提出スル答本官ハ該修正案ニ同意スル積リ

成ルヘク即金ニテ仕払フヘク然ラサレハ領収證ヲ与ヘテ之ヲ證明シ其仕払ハ成ルヘク速カニ之ヲ為スヘシ

(別電)

仏國委員提出ノ陸戰法規増補規定修正案報告ノ件

九月一日 後一一、一五 海牙発

林外務大臣

都筑大使

第一一九号

第六十六條 中立人ノ財産ハ自國版圖内ニ在リテハ自国人民ノ財産ニ、敵國版圖内ニ在リテハ敵國人民ノ財産ニ準

シ取扱フモノトス

第六十七條 往電第一一三号第七十條(本條中其特許人トアルハ公社若クハ個人ト其後修正ノ上委員会ニ提出セラレ其他ノ條項中ニ同様多少ノ修正アリシモ之ヲ略ス)ニ

同シ

第六十八條 中立船舶及其積荷ノ徵發及使用ニ關シテハ前條ヲ準用ス

第六十九條 前二條ノ徵發及使用並ニ其物件ノ破壊損害ハ

二九一 明治九年九月八日 在海牙都筑大使(ヨリ) 林外務大臣宛(電報)

総會議ニ於ケル戰闘開始中立國ノ權利義務及陸戰法規慣例等ニ關スル諸規則案ノ討議狀況報告ノ件

九月八日 後七、三五 海牙発

林外務大臣

都筑大使

第一二八号

七日総會議ニ於テ往電第一〇一及ヒ一一二号ヲ可決シ第一

一三号ハ諸方ヨリ種々留保アリタル為メ第二委員会ニ再審査附トナリタリ第一一二号第三條第二号ハ交戦國ガ専ラ

軍事上ノ目的ヲ以テ戰爭前ヨリ中立國ノ版圖内ニ設置シ且ツ公衆通信ニ其使用ヲ許サザル前後ノ通信機關ヲ使用スルコトニ修正ノ上総会ニ報告セラレタリ猶ホ英國ハ右総會議ニ於テ往電一〇〇号十四項ニ關スル留保ヲ解除セリ

在海牙都筑大使(ヨリ) 林外務大臣宛(電報)

第二委員会ニ於ケル陸戰法規慣例規則増補案討

議ノ結果報告ノ件

第六章 会議ノ進行、陸軍関係 二九二 二九三 二九四

第一平和會議ニ於テ議定シタル陸戰規則第五十二條第三項ハ當時ノ會議録等ニ拠レハ單ニ領収證ヲ発シ置クノミニテ之ニ対シ何等賠償ヲ要セサル義ト思考セルニ貴電第一〇〇号一一三号及一一九号ニ依レハ右規則修正會議ニ於テハ前記第五十二條第三項ニ「領収證ニ対スル仕払ハ可成速ニ之

二九一 明治九年九月四日 在海牙都筑大使(ヨリ) 林外務大臣宛(電報)

陸戰法規慣例規則増補規定案ノ討議狀況報告ノ件

九月四日 後一、〇五 海牙発

林外務大臣

都筑大使

第一二三号

往電第一一九号ニ關シ

仏國修正案ハ撤回セラレ電報第一一三号ニヨリ議シタルニ第六六條乃至六九條ハ少數ニテ否決七十一條ハ日英露仏澳

支那土耳其諸国七十二條ハ英露仏支那諸国留保セリ

同シ

第六十八條 中立船舶及其積荷ノ徵發及使用ニ關シテハ前

條ヲ準用ス

第六十九條 前二條ノ徵發及使用並ニ其物件ノ破壊損害ハ

九月九日 後一、二五 海牙発

林外務大臣

都筑大使

第一二九号

往電第一一二号第一二八号ニ關シ第二委員会ハ往電第一一三号中第六十四、六十五、七十一、七十二條ハ否決シ第六十一條第四、六十三條及ヒ第七十條ノミヲ再考セリ

第一二八号

二九四 明治九年九月十一日 在海牙都筑大使(ヨリ) 林外務大臣宛(電報)

陸戰法規修正案第五十二條中ノ意義ニ關シ問合ノ件

九月十一日 午後四時四十五分発

都筑大使

林大臣

第三八号

第一平和會議ニ於テ議定シタル陸戰規則第五十二條第三項ハ當時ノ會議録等ニ拠レハ單ニ領収證ヲ発シ置クノミニテ之ニ対シ何等賠償ヲ要セサル義ト思考セルニ貴電第一〇〇号一一三号及一一九号ニ依レハ右規則修正會議ニ於テハ前記第五十二條第三項ニ「領収證ニ対スル仕払ハ可成速ニ之

ヲ為スヘキ旨」附加スルノ提議アリ右ニ拠レバ第三項ノ領
収證ハ從來賠償ノ約束ヲモナセルモノト解釈セラレ居ルカ
如シ右ハ果シテ然ルヤ或ハ又此際同第三項ノ趣旨ヲ改メ領
収證ニ対シテ賠償ヲ与フルコトニ修正セラル、次第ナルヤ
右ハ戰争中露國人ノ財産ヲ徵發シタル問題ニ關シ必要アル
ノヨリ至急取調電報アリタシ

人ガ仕払フナスベキヤリ關シテハ確ニ未定ニナシ置キント
ノ事ナリ

二九五 明治四十一年九月十三日 在海牙都筑大使宛(電報)

陸戰法規規則修正案第五十二條中ノ意義回報ノ件

九月十三日 前八、四五 本省着

都筑大使

第一三一號

貴電第三八号ニ關シ陸戰法規五十二條三項ノ改正ハ同第四
六條ノ戰爭ニ基ズキ領收證ニ対シ仕払フナスベキハ勿論ナ
ルモ戰爭終了迄其仕払ヲ延ベスハ地方人民ニ苦痛ヲ与フル
モノナル故之レヲ救濟スル趣旨ニテ露國ヨリ提案セルモノ

二九六 明治四十一年九月二十一日 在海牙都筑大使宛(電報)

第六回總會ニ於テ陸戰法規慣例規則増補案及捕
獲審檢所案可決狀況並ニ次回平和會議会期決定
報告ノ件

九月二十一日 後九、五〇 本省着

都筑大使

第一三六號

附 電 右陸戰法規慣例規則増補案可決
経過

林外務大臣

本日第六回總會議ヲ開キ先ツ往電第一二九号ニ關シ第一委
員会再調査ノ結果ト附屬希望案トヲ可決シタリ本件ハ成行
錯雜シタル故別電第一三八号ヲ以テ電報ス統テ捕獲審檢所
案(往電第一〇六号議案ハ其後多少ノ修正アリ後ヨリ電報
ス)ニ議シタルニ投票ノ結果可トスル者三十四中「第十五
條ヲ留保シタルモノ數カ國アリ否トセル者ブラジル一国
「アーブチアイ」セルモノ曰露土耳其其外三國ナリ次ニ別電
第一三八号第三和平會議ノ件(往電第一二六号ノ議案ハ其
後内協議ノ末右ノ通り修正提出セラレタリ)ニ議セムリ全
会一致リテ可決スルト共ニ大數ノ委員ヨリ露國皇帝ガ從
來平和會議ニ關シテ發案ノ勞ヲ取ラレタル事ニ対シテ感謝
ノ意ヲ表シタリ本官モ同様敬意ト謝意ヲ表シ置ケリ

(別 電)

陸戰法規慣例規則増補案可決経過

La Haye, 5.10 p.m. 20 21st/9/07.

Rağu Tokio, 10.20 a.m. 22/9/07.

Hayashi,
Tokio.

No. 138.

Conférence recommande aux puissances, réunion

第六章 會議ノ進行、陸軍関係 二九六

d'une troisième conférence de Paix, qui pourrait avoir
lieu dans une période analogue à celle qui s'est accueillie
depuis précédente conférence, et à une date à fixer
d'un commun accord entre puissances, et elle appelle
leur attention sur nécessité de préparer travaux de
cette troisième conférence assez longtemps à l'avance,
pour que ses délibérations se poursuivent avec l'auto-
rité et rapidité indispensables.

Pour atteindre à ce but, conférence estime qu'il
serait très désirable que, environ deux ans avant
l'époque probable de réunion, un comité préparatoire
fut chargé par gouvernements de recueillir diverses
propositions soumettre à conférence, rechercher ma-
tières susceptibles d'un prochain règlement internatio-
nal, et de préparer programme que gouvernements
arrêtaient assez tôt, pour qu'il put être sérieusement
étudié dans chaque pays.

Ce comité serait en outre chargé de proposer mode
d'organisation et de procédure pour conférence elle-
même.

- Qu'en cas de guerre, autorités compétentes civiles
et militaires se fassent un devoir tout spécial d'as-
surer et protéger maintien des rapports pacifiques,
et notamment des relations commerciales et indus-

trielles entre habitants des puissances belligérantes et Etats neutres.

2. Que hautes puissances veuillent bien chercher à établir, par des accords entre elles, des prescriptions contractuelles uniformes, déterminant, quant aux charges militaires, rapports de chaque Etat avec étranger, établis sur son territoire.

Tsudzuki.

- (A) 交戦国一方ニ対シ敵對行為ヲ為シタルトキ
ト主張 (Se prévaloir) ベルコト得ズ
- (B) 交戦国一方ノ利益トナルベキ行為ヲ為シタルトキ殊ニ交戦国一方ノ軍中ニ於テ Volontairement 勤務ニ服シタルトキ

前項ノ場合ニ於テ交戦國へ皿國ニ対シ中立違反ノ行為アリタル中立人ヲ同一行為ヲ為シタル敵国人ヨリ嚴酷

ニ取扱フ事ヲ得ズ

第三 左ニ掲タル行為ハ第一(B)ニ規定スル交戦国一方ノ利益トナルベキ行為ト見做サル、コトナシ

- (A) 交戦国一方ニ為シタル諸供給 (fournitures) 又ハ承諾シタル公債 (emprunts) 但シ其供給者又ハ債主ガ交戦国他方ノ版圖若クハ占領地ニ居住セバ且ソ其供給ガ是等地方ヨリ來タラザルトキ
- (B) 警察又ハ民政 (administration civile) ニ隸シ課シタル勤務

九月一〔十二〕日 後一二、〇五 海牙発
〔十三〕日 前九、〇〇 本省着

林外務大臣 都筑大使

第一三七号

第一 戰爭ニ参与セザル國ノ Nationaux へ中立人ト見做ス

第二 中立人ニ於テ左ノ各号ノ一ニ該當ベントキヘ其中立

其所屬國ニ還送スベシ中立國ヘ必要ノ場合ニ於テ其版圖内ニ在ル交戦國ノ鐵道材料ヲ交戦國ノ為メ徵發セラレタル程度ニ達ヘル迄 (Jusqu'à due concurrence) 留置使用スルコトヲ得

(補償?)ヲ為スペキモノトス

本會議ハ左記ノ希望ヲ表彰ス

ト認ムベキ鐵道材料ハ緊急ノ必要ノ場合ト限度ノ外交戰國ニ於テ之ヲ徵發使用スルコトヲ得ズ該材料ハ可成速ニ

前二項ノ材料ニ対シテハ其數量及使用期間ニ応シ相當ニ